

仙台市総合計画審議会 第1回地域とくらし部会議事録

日 時	令和元年10月31日(木) 18:00~20:10
会 場	仙台市役所2階 第三委員会室
出席委員	阿部一彦委員、岩間友希委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、加藤和彦委員、小岩孝子委員、今野彩子委員、佐々木綾子委員、佐藤静委員、永井幸夫委員 [10名]
欠席委員	阿部重樹委員、折腹実己子委員、佐藤和子委員、傳野貞雄委員、中坪千代委員 [5名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 部会長選出及び部会長代行指名 3 部会長及び部会長代行挨拶 4 議事 (1) 市民参画事業について (2) 基本計画の検討について (3) その他 5 閉会
配付資料	1 仙台市総合計画審議会委員名簿 2 地域とくらし部会委員名簿 まちと活力部会委員名簿 3-1 市民参画事業について 3-2 せんだい中高生会議報告書 ～仙台市長へ・私たちからの提案です～ 4-1 基本計画の構成イメージ及び部会における検討の進め方 4-2 基本計画の検討資料 4-3 基本的な施策の方向性 参考資料 SDGs (持続可能な開発目標) について 参考資料 仙台若者ビジョン提言書 委員提出資料 市民の心と命を守り育てる仕組みづくり 委員提出資料 市民まちづくりフォーラム 「みんなのせんだい未来づくり 2019」 テーマ4 地域コミュニティの強化の発表概要

1 開会

○郷湖政策企画部長

本日は、皆さまお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから「第1回地域とくらし部会」を開会させていただきます。

今回が部会の第1回目ですので、部会長が決定されるまでの間、事務局の方で進行役を

務めさせていただきたいと存じます。

議事に入ります前に、定足数の確認を行います。本日は現時点で 10 名の委員の方にご出席をいただいております、定足数を満たしていることをご報告させていただきます。

続きまして委員の変更についてご報告をいたします。審議会委員名簿を資料 1 としてお示ししておりますが、仙台市議会からのご推薦により、新たに 5 名の委員にご就任いただきました。

資料 2 をご覧ください。部会委員名簿に記載しておりますが、5 名の新委員の方のうち、会長の指名によりこの地域とくらし部会には、仙台市議会市民教育委員会委員長の加藤和彦委員、同じく健康福祉委員会委員長の佐藤和子委員の 2 名がご就任されました。なお、新委員のお席には委嘱状を置かせていただきましたので、ご確認いただければと思います。

それではお名前をお呼びいたしますので、一言ご挨拶いただければと思います。加藤和彦委員、よろしく申し上げます。

○加藤和彦委員

市議会の市民教育委員会の委員長をやっております、加藤と申します。よろしくお願いたします。

○郷湖政策企画部長

どうもありがとうございました。佐藤和子委員は、本日所用によりご欠席でございます。なお、菊地崇良委員、西澤啓文委員、渡辺敬信委員は、もう一方の「まちと活力部会」の部会員となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に資料の確認をさせていただきます。お手元に座席表、次第、資料一覧、資料 1、資料 2、資料 3-1 から 3-2、資料 4-1 から 4-3、そして参考資料 2 種類を置いております。それから机の下の棚に前回までの主要な資料を閉じた青いファイルを置かせていただいております。皆さま、資料の不足などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

次に、会議の公開・非公開の取り扱いにつきましては、審議会の全体会と同様、公開で進めたいと考えておりますのでご了承いただきたいと思います。

(了承)

2 部会長選出及び部会長代行指名

○郷湖政策企画部長

それでは「2 部会長の選出と部会長代行の指名」に移らせていただきます。

この部会は、仙台市総合計画審議会条例第 6 条の定めによりまして、部会長は部会に属する委員の互選によって定めることになっております。また、部会長がご不在のときに、その職務を代行する部会長代行は、部会長があらかじめ指名することとなっております。

どなたか部会長にご推薦のある方は、挙手の上、ご発言をお願いいたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

審議経過の7つの視点にもありますように、これからの時代というのは、「共生」や「地域でともに生きる」という観点が必要かと思えます。この間の河北新報にもご意見を述べられていた、仙台市障害者福祉協会会長でいらっしゃる阿部一彦委員に、是非部会長をお願いしたいと思えます。

○郷湖政策企画部長

ありがとうございます。部会長は、阿部一彦委員をお願いしてはどうかというご提案でございましたが、皆さま、異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

○郷湖政策企画部長

ありがとうございます。それでは阿部一彦委員に部会長をお引き受けいただきたいと存じます。阿部一彦委員、どうぞ部会長席の方にご移動をお願いできればと思えます。

続きまして、部会長がご不在のときの代行者を阿部一彦部会長にご指名いただきたいと思えます。

○阿部一彦部会長

まず、ご指名いただきありがとうございます。部会長代行ということでは、これからの時代は行政だけではなくて多様な主体が協働で地域づくりに取り組む必要がより強まってくると思えます。

そこで、実践的な活動をなされております地域社会デザイン・ラボ代表の遠藤智栄委員に是非部会長代行をお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○郷湖政策企画部長

それでは遠藤智栄委員に部会長代行をお願いしたいと存じます。遠藤智栄委員、どうぞ部会長代行席の方にご移動をお願いいたします。

3 部会長及び部会長代行挨拶

○郷湖政策企画部長

それでは、阿部一彦部会長と、遠藤智栄部会長代行よりご挨拶を頂戴したいと存じます。はじめに阿部一彦部会長、お願いいたします。

○阿部一彦部会長

ただいま推薦いただきまして部会長をさせていただきます、阿部一彦でございます。先ほど、小岩委員からの推薦にも「共生」「地域でともに生きる」という視点で、私は仙台市障害者福祉協会の代表も務めておりますので、その観点ということでご推薦いただきました。

この総合計画は、誰もが暮らしやすい仙台につながるということで、ずっと皆さんとお話をさせていただいていましたので、喜んでお引き受けいたします。

障害がある私たちにとって、本当に暮らしやすいまちは、超高齢社会においても誰もが暮らしやすいまちにつながるということで、皆さんとともにこの計画策定に取り組みたいと思います。よろしく願いいたします。

○郷湖政策企画部長

どうもありがとうございました。続きまして、遠藤智栄部会長代行、お願いいたします。

○遠藤智栄部会長代行

ご指名いただきました、遠藤智栄と申します。皆さんのご協力を得て、そして部会長を補佐しながら進めてまいりたいと思いますので、皆さんのご経験とご専門と、個性が生きるような、皆さんとワイワイ議論できるような部会になればいいなと思っております。

よろしく願いいたします。

○郷湖政策企画部長

どうもありがとうございました。それでは審議会条例の定めによりまして、部会長が議長となることとなっております。

ここからの進行は阿部一彦部会長、よろしく願いいたします。

○阿部一彦部会長

では進めさせていただきます。早速ではございますけども、部会の審議に入ります。

先ほど、事務局より説明があった通り、全体会と同じく公開で進めてまいります。

本日の会議の議事録の署名についてでございます。全体会と同様に名簿順ということで、まずは加藤和彦委員にお願いしたいと思っております。よろしいでしょうか。

(了承)

○阿部一彦部会長

お願いします。議事に入る前に、事務局から報告があるとのことですので。

事務局、どうぞよろしくお願いします。

○松田政策企画課長

それでは1件、ご報告をさせていただきます。本日お配りしております一番下に置いてあります資料「仙台若者ビジョンの提言書」についてでございます。

こちらは、せんだい未来会議という団体から仙台市宛てに提出された提言書でございます。せんだい未来会議という団体は、大学生や社会人などのメンバーを中心としました市民活動団体でございます。若者の意見をまとめて政策立案をし、まちづくりに関しての提言をこのような形でまとめまして、7月5日に本市の市長がお受けしたものでございます。20年後のまちのビジョンであるとか、それから他都市の事例なども参考にした政策集になっておりまして、かなり具体的な内容となっております。今後の審議のご参考にしていただければと思っております。

4 議事

(1) 市民参画事業について

○阿部一彦部会長

それでは議事に入ります。議事（1）です。「市民参画事業について」でございます。事務局より説明願います。

○松田政策企画課長

それでは資料3-1、3-2についてご説明申し上げます。まず資料3-1をご覧ください。こちらは、7月の第6回審議会が直近で最後でございましたが、そちらで審議経過をいったん取りまとめました後に、本日に至るまでの間にこれまで行なってきた市民参画事業についてまとめてご報告をするものでございます。

まず、1の「せんだい中高生会議」ですけれども、こちらは通常の全市民イベントではなかなかご意見をいただく機会がない中高生の世代から、仙台市長宛てに政策提言をいただいたものでございます。詳細は次の資料3-2で報告書としてまとめておりますので、詳しくは後ほどご高覧いただきたいと思います。その内容ですけれども、やはり学生の目線が生きる提言でございます。例えば「お休みの日に学校を開放して、そこで勉強をしたい」ということであるとか、それから仙台市の年間イベントがさまざまありますけれども、そちらを「1つのテーマを通して、もっと楽しめるイベントにしたら良いのではないか」とか、「ボランティア活動を通じて人のつながりづくりができるのではないか」など、非常に多方面なご意見を頂戴したところでございます。

それから2の「東北における仙台のあり方と地域づくりシンポジウム」ですが、本市の市制施行130周年、そして政令指定都市・区制の移行30周年を記念したシンポジウムを開催したところでございます。テーマが東北における仙台のあり方や、地域づくりということでして、この審議会でもこれまでご意見を頂戴してきたテーマでもございますことから、ここに掲載をさせていただいております。当日はシンポジウムのほか、これまでの仙台市の歩みを示すパネル展なども行ったところでございます。

3の「市民まちづくりフォーラム」は、7月にまとめました審議経過における7つの視点に関連し、市政の8つのテーマについて市民の皆さまが話し合いを行ったものでございます。

最後の4の「全市民アンケート」は、市政だより9月号にはがきをとじこみ、アンケートを行ったものでございまして、7,000通を超えるご意見を頂戴いたしました。

2、3、4の報告書等につきましては、現在取りまとめ中でありまして、次回の部会に提出したいと考えております。

全体としましては、イベントにつきましても定員を超えるお申し込みを頂戴したところでありまして、市民参画の意識が高まってきているものと感じているところでございます。

○阿部一彦部会長

説明ありがとうございました。市民参画事業でファシリテーターをされた委員の皆さま、それから当日にご参加、そしてご見学された委員の皆さま、お疲れさまでございました。よろしければ感想などを一言ずついただきたいと思います。

はじめに「せんだい中高生会議」と「市民まちづくりフォーラム」でファシリテーターをされた岩間委員からお願いいたします。

○岩間友希委員

私は「せんだい中高生会議」と、「市民まちづくりフォーラム」では、都心の賑わいと活力についてファシリテーターを務めさせていただきました。感想は、楽しかったです。小学生並みの感想なのですが、何が楽しかったかという点、まず「せんだい中高生会議」と「市民まちづくりフォーラム」のどちらも参加者の方から「こういう機会が少ないので、例えば異なる学校同士で集まるという機会も初めてだったので、すごく良かった」というアンケート結果も多かったですし、「市民まちづくりフォーラム」では、やはり「世代や業種、立場を超えて集まるのが初めてで楽しかった」というお声があつて、そういう機会の提供について求められているのだということ強く感じました。

それから「せんだい中高生会議」も、結構当事者目線で皆さん発言してくれました。ファシリテーターとしては若者の興味が学力の向上に向いているということについて嬉しく感じました。

それから環境です。例えばこの冊子を詳しく見ていただければと思うのですが、「杜の都だけではなくて海の都でもあるよね」「でも海にはちょっとプラスチックゴミが」みたいな発言もあつたりして、結構若い世代の興味・関心がピックアップできたという面白さがありました。

「市民まちづくりフォーラム」でも、3テーブルにいらっしゃった皆さんは、いろいろな世代の方が参加していました。都心の賑わいと活力といったときに、賑わいはとても漠然としたイメージなので「具体的にはどういう賑わいですか」と聞くと、「どちらかといえば若者がいて楽しいような、賑わいがあるまちがいいと思う」という意見が実は3テーブルとも一致したのです。ですから、「せんだい中高生会議」も当事者として話しているし、「市民まちづくりフォーラム」に参加の方々も「若者にいいまちを」と言っているのであれば、思いは一致しています。そういう機会を増やすことや、一致した思いをもっと具体的にするにはどうすればいいのかということ具体的に落とし込んでいきやすいと感じました。2つの形は違えども、つながっているイベントになりました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。次に「市民まちづくりフォーラム」でファシリテーターをされた遠藤智栄部会長代行、よろしくお願いします。

○遠藤智栄部会長代行

「市民まちづくりフォーラム」の方でお手伝いさせていただきました。私は地域コミュニティの強化を担当し、まさにこちらの部会の中核となる部分でお手伝いしたのです。全体としての雰囲気をお話します。

最後に各グループで発表していただいたのですけれども、その中で「もっとこういう場を作ってほしい」「継続してほしい」という声がありました。市民の方は、みんなで自分が住む仙台のことを話す機会にある意味「飢えている」というと変ですけど「欲している」ということがひしひしと伝わりました。そして私、過去にもこの「市民まちづくりフォーラム」は何回かお手伝いしたことがあるのですけれども、過去と比べても今回は一番盛り上がっていて、熱気さえも感じるような、すごくいい場でした。

先ほど松田政策企画課長からも「機運が盛り上がっている」とおっしゃっていただいていますけれども、やはりこういった流れをさらに加速できるような市民参加の機会ですとか、機会だけではなくて、ご意見をきちんと市政に反映していくということが大事だと感じました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。それでは、委員の皆さまから質問やご意見、確認などをいただきたいと思えます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

まずは次に進めさせていただきながら、関係あることでご意見があったらいただきたいと思えます。

なお、次回の第2回部会では、全市民アンケートの結果なども報告される予定とのことですので、本当に大事なことだと思えますし、大学生の方々が関心を持っているということ、それから中高生の方々、そして市民の方々が私たちの暮らす仙台市に関心を持って、いろんなことでご意見をいただくというのはとても心強いことだと思えます。

(2) 基本計画の検討について

○阿部一彦部会長

次は議事(2)「基本計画の検討について」でございます。このセッションはおおむねですけれども、19時55分までということで進めさせていただきます。

事務局からの説明も少し時間がかかりますけれども、そのような進行でお願いいたします。では事務局、説明願います。

○松田政策企画課長

それではご説明申し上げます。資料4-1、4-2、4-3をまとめてご説明します。

本日の審議のメイン資料は、資料4-2ではございますけれども、まずは資料4-1によりまして、基本計画の構成のイメージ、そしてこれからこの部会においてどのような審

議の進め方でご議論いただくかというところをご説明しまして、委員の皆さまとこの点をいったん共有した上で、詳細資料4-2の方をご説明したいと思います。そういうことで資料4-1をご覧いただきたいと思います。上段に構成のイメージがあります。

前段の「はじめに」と「時代背景と本市の現状」がありますけれども、こちらをまずお示しをしまして、これを踏まえた上で、「新たな杜の都に向けて」として、本市の目指す都市の姿をお示しするという構成をまず考えております。

その下の「本市が大切にする姿勢」のところは、目指す都市の姿の実現に向け、まちづくりを進めていくにあたっての大切にしていける基本姿勢であります。その後の重点プロジェクトの施策にもこの姿勢を織り込んでいきたいと考えております。

そして「重点プロジェクト」は、7月の審議経過でまとめました7つの視点と、それぞれの取り組みのイメージがありましたが、あれを踏まえて今回6つのプロジェクトにまとめ直した部分でございます。部会ではこのプロジェクト部分を重点的にご審議いただきたいと考えております。

その下の「基本的な施策の方向性」ですが、こちらはプロジェクトに関わる施策以外の施策も含めた総合計画でございますので、網羅的に施策の方向性をお示しする部分でございます。

その下に「区別計画」としまして、5区ごとの区別計画が並ぶ想定でございます。

次に審議のスケジュールについてご説明します。下段の「部会における検討の進め方」をご覧ください。

総合計画につきましては、来年度の夏頃に中間案を取りまとめ、パブリックコメントを行う想定で進めていきたいと考えております。そこに向け、年度内におおむね3回の部会でご議論いただき、それを取りまとめて来年度当初に開催予定の第7回審議会において、まずは基本計画中間の素案をお示ししていきたいと考えております。

その後、審議会を重ねまして、先ほど申し上げた中間案、こちらに向けて肉付け精査していきまして、夏頃の中間案の公表とパブリックコメントにつなげていきたいと考えております。

本日の部会では、まずはこれから重点プロジェクトをご議論いただく上で、前提となる「どのような都市を目指していくのか」という目指す都市の姿と、その実現に向けて施策を進めていくにあたっての大切にしていける基本姿勢である「本市が大切にする姿勢」について共有を図るためのご議論をお願いしたいと考えております。

「重点プロジェクト」につきましては、本日もご意見を頂戴したいと考えておりますが、特に次回の第2回、そして第3回の部会で集中的にご審議いただく、そのようなスケジュール案を今回お示しさせていただいております。

続いて資料4-2をご覧ください。こちらは7月にいったん取りまとめた審議経過の内容やご意見等を踏まえ、基本計画の構成最終形といえますか、構成に近づけながら再構成したものとなっております。

1ページ目をお開きください。「はじめに」の部分は、審議経過でまとめた内容を、文章のところはほぼそのまま掲載しておりますけれども、内容としては計画策定の目的やこれまでの本市の歩み、これまで培った資源や知恵を活かしつつ、新たな価値観を生み出す

転換の必要性などについて、2ページの関連データとともに掲載をしております。

4ページをお開きいただきたいと思います。4ページは「時代背景と本市の現状」でございます。現時点ではご覧の通り項目出しの段階ですが、今後のご審議も踏まえながら加筆をしまいたいと考えております。「時代背景」としては、人口の推移、そして仙台市のこれまでのSDGsの広がりについて触れていきたいと考えております。

2の「仙台市のこれまでの歩み」につきましては、現計画にはない震災と復興について丁寧に記載することを考えております。

3につきましては、課題認識だけではなくて、仙台市の強みについても掲載しまして、この後の4つの「都市個性」を生かしたまちづくりにつなげていきたいと考えています。

5ページをお開きください。5ページからは「目指す都市の姿」をお示ししている部分でございます。

審議経過で取りまとめました内容とともに、今回は「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というフレーズを追加し、まちづくりの理念として掲げさせていただいております。これは、これからの変化の大きい時代背景を踏まえ、従来型の施策をこなしていくというスタンスではなく、社会経済環境の変化に対応しながら、新たな課題に対し挑戦を重ねていくという、これまで審議会でご審議いただきましたまちづくりの理念をこのような表現で今回お示ししているものでございます。

また、6ページ以降は審議経過でまとめました4つの本市の「都市個性」についてお示しするとともに、それぞれの都市個性を切り口として、具体的に「ではどのような都市を目指していくのか」というところを表すフレーズを追加させていただいております。

6ページは「環境」の都市個性を切り口に「世界を牽引する防災環境都市へ」、また、7ページは「共生」の都市個性を切り口に「多様性が社会を動かす共生のまちへ」。8ページの「学び」につきましては「学びと挑戦の文化が根付くまちへ」、そして4つ目の都市個性、9ページになりますが、「活力」を切り口にしまして「東北の活力を生み出す創造のまちへ」というようなフレーズを今回お示ししております。

続いて10ページになります。こちらは施策全般に共通する「本市が大切にする姿勢」を掲載しております。「チャレンジと協働」、そして2の「多様性を活かす」視点につきましては、これまでの審議でも多々ご意見を頂戴してきておりますので、このような形でお示しをさせていただいております。

また、東北の中の仙台という視点の重要性や、地域目線のご意見も頂戴してきたところでもございまして、これらにつきましては、3の「大都市としてのまちづくり」の中にまとめております。

11ページになりますが、こちらは「持続可能なまちづくり」としてご意見を頂戴してきました「SDGsの視点」であるとか、それから審議経過の段階では「今後の協議課題とする」としておりました安定的な財政運営などについて、ここに掲載させていただいております。是非ご議論をいただきたいというところでもございます。

ここまでご説明してまいりました部分、1ページから11ページまでは第1回の審議会以降ご審議いただいていた都市像とまちづくりを進める上で大切にしたい価値観をこのような構成で再度まとめなおしたものとなっております。

そして 13 ページからは、今回新たに 6 つのプロジェクトをお示ししているところがございますが、そのご説明に入る前に、12 ページをご覧くださいなのですが、こちらが審議経過でお示した 7 つの視点と、今回それらをまとめなおしてお示する 6 つのプロジェクトとの関係性をお示ししているページになっております。

1 に審議経過でまとめた 7 つの視点を再掲しております。その下、2 には今回お示する 6 つのプロジェクトがあります。

その隣には、どの視点を掛け合わせてこのプロジェクトを今回お示するのかという「視点の掛け合わせ」、そしてその中でも「主な視点はどれなのか」というところについてお示しをしている部分でございます。視点 1 から 7、それぞれに沿ったプロジェクトとなっております。

ただし、視点②の「仙台でともに生きる～多様性が生きるまちの実現～」につきましては、施策全般に共通するものとしまして、ここで 1 つのプロジェクトを起すのではなく、先ほどご説明した「本市が大切にする姿勢」の 1 つとして整理をさせていただき、各プロジェクトにその視点を溶け込ませているという状況でございます。

3 になりますが、こちらは部会が所管するプロジェクトはどれなのかというところをお示ししているところでございます。

7 つの視点を整理したときには、多様性の観点は 2 つの部会の共管としまして、後の 6 つについてはそれぞれ 3 つずつ分担することとしておりました。その観点でそれぞれの部会の所管を今回お示するプロジェクトベースで整理をさせていただいたのが、こちらでございます。「地域とくらし部会」は、プロジェクトの 2 と 3 と 4 を所管するという整理をしております。プロジェクト 2、3、4 が、「地域とくらし部会」の所管というふうに考えております。

では 13 ページをお開きいただきたいと思います。13 ページからは、それぞれの 6 つのプロジェクトについてプロジェクトの方向性と、それから参考といたしまして、これまで審議会でもいただきましたご意見に関連するものを掲載させていただいております。

13 から 14 ページは「未来へつなぐ防災環境プロジェクト」でございまして、7 つの視点のうち、「仙台を磨き伝える～世界に輝く杜の都の深化と継承～」に沿ったプロジェクトでございます。

防災環境都市のブランド力の向上、そして世界への発信を目指しまして、施策の方向性の例をここに載せておりますけれども、ひとつづくりであるとか、それから脱炭素やプラスチック資源の循環、そしてインフラの整備に向けた長寿命化・耐震化などのまちづくり、また「×グリーン」とありますけれども、こちらでは緑や公園などの資源の活用に着目した施策、そして最後に「×チャレンジ」としまして、都市ブランド力の向上や、先端技術を取り入れた防災ビジネスの活性化などを挙げております。こちらはあくまで例ということになっております。

次、15 から 16 ページをお開きください。こちらが「みんなで作る地域未来プロジェクト」でございまして、7 つの視点のうち、主に「仙台で暮らす～地域コミュニティーの強化～」に沿ったプロジェクトとなっております。

人口減少・高齢化の進展などを踏まえまして、さまざまな主体の方々と連携した地域づ

くりのための施策の方向性を例としてお示ししております。

地域における支え合いや、今後一層重要となってくる地域交通について、また、未来技術や企業と連携した取り組み、そして最後に「地域×交流」としましては、地域資源を活用した地域の活性化・交流づくりなどを掲載しております。

次に 17、18 ページをお開きください。こちらは「笑顔はなまる子どもプロジェクト」でございまして、7つの視点のうち、主に「仙台で育つ～子ども・子育て応援まちづくり～」に沿ったプロジェクトでございしますが、「仙台で学ぶ」の視点も一部含まれております。子どもが笑顔になれるような環境づくりと、子育てを応援するための施策の方向性の例をお示ししております。「×社会」の視点では、いじめや不登校などの諸課題への対応や、貧困家庭の支援。そして「×家庭」の視点では、子育て家庭の支援策。そして「×未来デザイン」としましては、子どもたちの生きる力と地域への愛着を育むための施策。そして最後の「×FUN」としまして、子どもや子育て世代が楽しめる環境づくりをここにしてお示ししております。課題対応型の施策にとどまらず、「仙台で子どもを産み育てたい」と思われるようなポジティブな施策も盛り込んでまいりたいと考えております。

続いて 19 から 20 ページをご覧ください。こちらが「いきいきライフデザインプロジェクト」でございまして、7つの視点の中の「仙台で学ぶ・活かす」を中心に、地域課題のところは「仙台で暮らす」の視点を含んでおります。

また、「仙台で働く」の視点も一部加えてこのような形で再構成をしております。施策の方向性の例としましては、「×地域デザイン」としまして、教育機関の知見や、若者参加による課題解決について、「×キャリアデザイン」としましては、多様な働き方の応援やリカレント教育、企業支援についてまとめております。

また、高齢者や障害者の活躍促進に向けた施策や、最後、全世代の健康づくりについてもスポーツ振興やICTとの連携による施策を例としてお示ししております。

21 ページから 22 ページは、「TOHOKUチャレンジプロジェクト」でございます。7つの視点のうち、「仙台で働く」の視点に沿いつつ、東北の中の仙台の役割の観点から施策をまとめたものでございます。科学技術イノベーションの視点からは、次世代放射光施設や、大学の知的資源の活用、社会起業家などソーシャルイノベーションの視点からの施策、そして広域観光に向けた施策とともに、本市や東北においては若者の首都圏への流出が課題となっておりますことから、最後には「×若者」の施策も盛り込んでおります。

続いて、23 から 24 ページが「せんだい都心再構築プロジェクト」でございまして、7つの視点のうち「躍動する仙台を創る」に沿ったプロジェクトでございます。

「×イノベーション」としまして、内外から投資を呼び込むためのビジネス環境の整備や新たな事業創造を支援する取り組み、そしてリノベーションの視点として、公共空間の活用やクリエイティブ人材育成など、都心の回遊性については面的な賑わいの創出や、通りの特性を生かしたエリアマネジメントなどについて。そして、防災環境都市にふさわしい都心づくりについても掲載しております。ここまでが6つのプロジェクトになります。

25 から 26 ページをお開きください。こちらは「基本的な施策の方向性」としまして、先ほどご説明した6つのプロジェクトに関わる施策以外のさまざまな施策も含め、網羅的にお示しをしている部分でございます。

6つのプロジェクトは、今後の時代の流れも踏まえまして、プロジェクトとしてお示しをしています。当然そこからこぼれ落ちる施策はたくさんございますので、それらも拾い上げてまとめ直しているのがこの部分になります。

そして、最終の27ページが「区別計画」、そして計画ができた後の「進行管理の方針」、資料等をまとめる「資料編」となっております。

資料4-3でございますが、こちらは先ほどご説明した基本的な施策の方向性、いわゆる網羅的な施策の各部分につきまして、改めてこのようなエクセルの表形式にまとめ直したものとっております。

なお、昨日「まちと活力部会」が開かれたところでございますが、その中でいただいたご意見の中で大きなところを本日ご参考として、共有も兼ねてちょっとお話をさせていただきたいと思っております。

大きく2つありまして、まず今ご説明した「基本計画の構成について」でございました。ご意見としては、重点プロジェクトに至るまでの部分のボリュームがちょっと多くて、特に個性、市政、視点などの概念が複層的にあるため、ちょっと分かりづらいというところで、少し整理をしてシンプルにした方が良いのではないかとのご意見がありました。

また、分かりやすい構成の例として、まず「目指す都市の姿」があって、それを実現するために6つのプロジェクトがある。そこに共通する「大切にしたい姿勢」というものがあるので、もう少しそういったところを踏まえてシンプルにした方が良いのではないかと具体的なご意見も頂戴いたしました。また、7つの視点と今回の6つのプロジェクトとの関係性が少し見えづらいとのご意見もありました。

そして、もう1つのご意見は、「SDGsの取り組みについて」でございます。SDGsは17の目標で非常に広範であるというところで、どのように取り組んでいくのか今回関連するロゴマークを6つのプロジェクトに掲載しておりましたが、「それだけではなくて施策の横串が通っているかというチェック機能として、この仕組みを使っていくということもあるのではないかと」などのご意見を頂戴したところでございます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。さて、これまで全体会では6回分の審議内容を審議経過としていったん確認をしたわけでございますけれども、これからの部会では、本日の部会を含め、年度内に計3回ほど開催する予定となっております。

来年度は、夏前ぐらいを目途に中間案を取りまとめる予定としているとのことです。部会では、今事務局から説明がありました資料4-2、基本計画の検討資料をさらにブラッシュアップ、これに関する検討を深めながら、審議を進めるということにしたいと思っております。

それでは意見交換に入ります。今回は部会の第1回目ですし、初めて提出された資料なので、まずは皆さんから自由にご意見をいただきたいと思います。率直な意見交換が大事だと思います。ただし、ボリュームがありますので、資料の章立てごとにパートで区切りながら審議を進めたいと思っております。

おおむねでございますけれども、Ⅰの「はじめに」と、Ⅱの「時代背景と本市の現状」

についてはまとめて5分ぐらい。それからⅢの「新たな杜の都に向けて～目指す都市の姿～」には15分ぐらい。Ⅳの「本市が大切にする姿勢」は15分ぐらい。Ⅴ「重点プロジェクト」に関しましては30分ぐらい。それからⅥ「基本的な施策の方向性」、Ⅶ「区別計画」、Ⅷ「進行管理の方針」、Ⅸ「資料編」は、まとめて5分ぐらいを一応の目安として進めさせていただくということでございます。

さて、ここで事務局の方から追加の配布資料があるとのことですので、事務局、お願いします。

○松田政策企画課長

この度、佐藤静委員、そして遠藤智栄部会長代行のお二人から資料をご提供いただきましたので、お配りしたいと思います。

(資料配布)

○阿部一彦部会長

佐藤静委員、遠藤智栄部会長代行、どうもありがとうございます。この資料についてはその関係のところ、後半になりますがⅤの「重点プロジェクト」の部分でお二人からご意見をいただきたいと思います。

では、Ⅰ「はじめに」と、Ⅱ「時代背景と本市の現状」。今日は時間的なことがありまして、まとめて5分というのは大変ですけれども、パートⅠ「はじめに」、Ⅱ「時代背景と本市の現状」をまとめて審議いたします。

資料の1ページから4ページです。「はじめに」は、審議経過で書かれていたことがほぼそのままですけれども、Ⅱ「時代背景と本市の現状」は、新たに加筆した部分です。

ここはあまり時間をかけずに、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。1ページから4ページということになりますけれども。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

ここへ来ると一委員として話せるのでありがたいなと思っています。

「時代背景と本市の現状」のところですか。私がつくづくいつも思っているのは、3番目のところの「課題認識と仙台市の強み」と書いてありますが、これはひっくり返して欲しいのです。課題があるから全部対応しないといけないのではなく、そもそも仙台市が果たさなければいけない役割を強みから考えた上で、それを生かすために乗り越えないといけないことを選んで、その課題として認識してほしいのです。

いろいろな人にとって問題だと思っていることはさまざまですから、課題から始めてしまうと、実は焦点がぼやけてしまいます。むしろ強みがあって、それをより伸ばしていくとか、生かしていくためには「こういうことに気をつけたい」「これは何とかしたい」というふうにしてほしいのです。できれば3のところの順番を変えるか、私としてはもはや「課題認識もいらぬのではないか」「もう仙台市の強みだけでいいのではないかと

いう気もしているぐらいです。
一委員として話しました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

ただいまの「仙台市の強み」を前に持ってきたらどうかということで、まずは委員の皆さまからご意見等があればいただきたいと思います。それから事務局というふうに行きま
すけども、いかがでしょうか。皆さん。

はい、加藤委員お願いします。

○加藤和彦委員

私も奥村委員と同じで、課題認識から入るといのはどうなのかと思っていました。やはりこれからの未来を考えた上では、ネガティブの方から入るよりは、やはりポジティブの方から入っていった方が確かにいいのではないかと。そこはちょっと直してもらいたいとい
うのは奥村委員と一緒にございます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さま、いかがでしょうか。頷いている委員の方が多いので、お二人の委員からご意見があったということで、事務局から発言ありましたら願
いします。

○松田政策企画課長

ここの部分については、確かにこの総合計画は、「何のためにつくるのか」といったところに関連するところだと思ひまして、やはり仙台市は「良い都市だ」「魅力があるのだ」というところをアピールするところもあるのではないかと。以前の審議
会の方でもご意見いただいたところでした。こちらのところは書き方や構成も含めて、改めて精査をしてまいりたいと思います。

○阿部一彦部会長

ではそのように進めるということによろしいでしょうか。ありがとうございます。

そのほか、1つ目のパートですけれども、まだ時間ありますけれどもいかがでしょうか。ではいったん次に進めさせていただいてよろしいでしょうか。

次はⅢです。「新たな杜の都に向けて～目指す都市の姿～」ということで、ここはおおむね15分ということで進行させていただきます。資料の5ページから9ページです。こ
この部分は審議経過では、まちづくりを進める上で大切にしたい価値観ということで、「環境」「共生」「学び」「活力」という4つの都市個性というところまでまとめておりました。

今回副題に、「～目指す都市の姿～」と入っていますが、今回新たにお示しておりますのは、4つの都市個性に紐付けて4つの都市像を打ち出しておりまして、それにキャッチ
フレーズも併せて記載したところです。

ここは文言や表現のご意見は、いったん後でお話するということにさせていただいて、まずこの都市個性と都市像をこのように関係づけたところ、総合計画の立て付けの部分についてご意見をいただきたいと思います。そして、その後で個別の表現などについて、委員の皆さまから確認・ご意見をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

この部分については15分を目処に進めたいと思います。

まずは立て付けの部分についてご意見のある委員の方よろしくお願ひいたします。5ページから9ページです。いかがでしょうか。

奥村委員、よろしくお願ひします。

○奥村誠委員

5ページのところの黒枠の「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」はこれでいいのですが、せっかく全体会合のときに重ね合わせた木の絵があったと思うのですが、あれはどこへ行ってしまったのかと。4つの丸があって、真ん中に木があって、それを掛け合わせて木を育てようみたいな絵があったと思うのですが。あれが5ページにほしいと思って見ていたのですが。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。その図については、これまでの資料で確認できるわけですか。机に入っていますか。

○松田政策企画課長

木を背景にした4つの都市個性の掛け合わせのイメージ、まさに1枚にまとめた図につきましては、審議経過には載せさせていただきました。

今回は、とりあえずこのキャッチコピーをつけたというところもありまして、いったんこれでお示しをさせていただいたところですが、あちらにつきましては委員の皆さまからのご意見も是非お伺いしたいと思っております。

○阿部一彦部会長

ということです。ありがとうございます。ご意見、いかがでしょうか。委員の皆さま。佐々木委員、お願ひします。

○佐々木綾子委員

今、奥村委員がお話くださったことは私もちょっと感じていました。やはり4つの掛け合わせに意味があって、そこにこのまちづくりの理念が立つのではないかなと思っております。全体的に先ほどの「分かりやすさ」ということもあったと思うのですが、どなたでも分かりやすく、イメージそして言葉が入ってくるということが表現としてもとても重要でありますし、その意味というのが重要だと思っておりますので、私もあった方がよろしいかなと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。分かりやすく、イメージを持ってということで、その図は大事だというご意見でございます。委員の方々、いかがでしょうか。ここの図のところのほかのことも含めてですけれども。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

似た意見になってしまうのですが、「環境」「共生」「学び」「活力」といったときに、「あの4つは同じランクだ」「あくまでも先に書いてあるからこれが最優先だ」ということではなく、「どれも同ランクで掛け合わせが大事だ」ということがやはり一目で分かった方がいいというのが、読んだときの感想です。

○阿部一彦部会長

この4つというのは、「同じ重要性だ」ということを図で見ていただくことが大事だというご意見ですね。ありがとうございます。

ではどうですか。そのほか、委員の皆さま。この4つについては、そのようにイメージを持っていただいて、見てもらった方が分かりやすいのではないかと。これは委員の皆さんのご意見ということでよろしいでしょうか。

では、ほかの部分などで委員の皆さまからご意見をいただければと思います。

次は表現のところも含めてご意見をいただくということでお願いします。全体像については、またご意見をいただくのもありますけれども、それも含めてです。まずは表現ということで、皆さんからご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

表現ということでは、この7ページなのですが、共生のところ、背景の上から数えると3行目ですが、「歩道や公共施設の段差など物理的・社会的な障害の解消」とありますけれども、これは今の障害者基本法などでは「社会的障壁」という言葉も使っていますので、その言葉も大事かなと思って確認させていただきます。そのほか委員の皆さん、いかがでしょうか。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

それぞれの目指す都市の姿のところ、すごく素敵なキャッチコピーを考えていただいているのですが、まちづくりの理念が「挑戦を続ける」というふうに含まれているのだとしたら、その目指す都市の姿も「～について挑戦を続ける」とか、「挑戦」というところで終わらせるような表現はどうかと思いました。

例えば学びだと、「学びと挑戦の文化が」というふうに挑戦が混じっていたりするので、そのほかは「何について挑戦するのだ」のようなところが少し分かりづらいなと思いました。

○阿部一彦部会長

それぞれに挑戦という表現を入れることで、もっと分かりやすく伝わるのではないかという意見ですね。ありがとうございます。

また、委員の皆さまからいくつかご意見をいただいて、後は事務局にコメントをもらうというふうに進めていきたいと思います。委員の皆さん、いかがでしょうか。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

ちょっとうまく言えないかもしれないのですが、さっきの4つの図の話を含めてです。都市個性と都市の姿の関係なのですが、都市個性というのは、仙台市が持っている都市の個性で、目指す都市の姿というのは割と未来志向で、「こういう姿を目指していくぞ」という1つ上のステージにあるものなのかなというふうに捉えています。

先ほど岩間委員がおっしゃったように、私はこのフレーズはすごく市民の気持ちに落ちるような良い表現だというふうに思っているのですが、その辺の、現状の都市個性と、目指す姿との関係みたいなことを少し大事に考えた方がいいかなと思います。

そうしたときに、まちづくりの理念というふうに全体を書いている、「挑戦を続ける新たな杜の都へ」というのが、今の都市個性を掛け合わせた状態で、少し見えないところにあるというか、どういうものなのだろうという。「みんなでつくっていく」みたいな姿に置いてもいいのかなというふうに。

漠然とした意見で申し訳ないのですが、そんな個性とビジョンとの関係を少し大事にしたいと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今、岩間委員と今野彩子委員からあったご意見、確認について事務局からコメントしてもらっていいですか。

○松田政策企画課長

まず、キャッチコピーに挑戦というワードをすべて入れるというご提案についてはありがとうございます。これは実際作業をさせていただいて、それできれいに収まるものになるのか、それとも「ちょっとそれでは難しい」ということであれば、もしかしたらキャッチコピーはなくても、下の文章で当然それをより丁寧に解説する部分がありますので、その中でいわゆる「挑戦をしていくのだ」という前向き、ポジティブな姿勢が表れるような文章にできないかというところについても工夫をさせていただきたいと考えております。どこまでできるかは私たちの力量なのですが、工夫に向けて頑張りたいと思います。

それから「都市個性」と「目指す都市の姿」についての関係性については、もう少し「何で都市個性からこれが出てくるのか」というところについても、文章の中でそれが見えるようにできないかというところは考えたいと思います。意味合いとしましては、「強みを生かす、強みをさらに伸ばして、より元気で魅力的な仙台市にしていく」というところがあるのですが、その強みを伸ばして「さらにこういう都市の姿にしていきたい」と

というのが、いわゆるここでお示しをしているものなので、それが「もう少し分かりやすくお示しできないか」というところについても、検討させていただきたいと思います。

○阿部一彦部会長

岩間委員、今野彩子委員、よろしいでしょうか。事務局の表現については、委員の皆さまと考えていく方向でお願いします。そのほかいかがでしょうか。

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

6ページから9ページの一番上に括弧して、「自然と都市機能が調和した都市環境」などの言葉があるのですが、6ページの「環境」とか、7ページの共生社会の「社会」というのは分かるのですが、8ページ、9ページにある成長基盤などの「基盤」というのが私にはちょっと分かりにくい。

基礎ができているという意味で、基盤と入れているのかと思うのですが、「環境」や「社会」という言葉は分かりやすいのですが、「基盤」となると、どういうことかなと。どういうものというのが想像できにくいところがあって、その言葉を別の言葉に直せないのかと覚えているところなのです。8ページ、9ページに同じ「基盤」が使われていますが、別の言葉を使った方が分かりやすいかなと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今の小岩委員の意見も含めて、委員の皆さまからお話したいきたいと思います。いかがでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

今おっしゃっていただいた「基盤」という表現も含めてなのですが、今回の報告にもあったように中高生からもご提案をいただいておりますから、やはり総合計画の概要版はもちろん、本編についても中学生以上の市民が読みやすいような、分かりやすい日本語で書いた方がいいのではないかと思います。

たしかに私も「成長基盤とは何だろう」と思ったりするので、そういう分かりやすい日本語と言いますか、そういったことも意識してつくっていただくといいのかな。

やはり提言した中高生も、提言した後に「どんなのができたのだろう」と、必ず手に取ると思うのです。その時にどんどん読み進められるような、そんなものになったらいいなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。中高生が積極的に関わってくださっているわけですから、その意味でも分かりやすい表現が必要ではないかというご意見です。

今のお二人の意見を踏まえて事務局からコメントをもらっていいですか。

○梅内まちづくり政策局次長

分かりやすさという点は本当に大事で、市民の皆さんと計画を共有していく上でも注意していかなければいけないと思っております。まさにその点についても意識していかなければいけないと思っております。

中高生会議の方を見ますと、「F o r U (フォー・ユー)」とか、「海の都 せんだい」とか、コピーライターがいるのではないかというような、分かりやすいコピーとなっております。我々もなるべく若い職員を中心に一生懸命考えているのですが、「中高生のような頭の柔らかさが失われているな」とちょっと反省するところもあります。中高生の皆さんもこういう形にまとめているということですので、我々も反省すべき部分があるかなと思っております。

○阿部一彦部会長

では今の意見を踏まえた上で検討をよろしく願いいたします。

それではそろそろ 15 分の時間になりましたけれども、ほかにご意見ありますでしょうか。いかがでしょうか。

佐藤静委員、お願いいたします。

○佐藤静委員

「環境」「共生」「学び」「活力」、この背景の説明のところに歴史的な経緯が含まれているのですが、共生のところあまり過去のというか、遡っていない感じがあるのですが、これはやむを得ないのでしょうか。

○阿部一彦部会長

共生のところは、1960 年代ぐらいというか。

○佐藤静委員

ほかのところはずいぶん遡ったことが網羅されていて、ちょっとこの辺が気になったところでは。

○阿部一彦部会長

ですね。伊達政宗公のところも。その辺はこれをつくるときに事務局、何かありましたか。

○松田政策企画課長

こちらを書くにあたりましては、仙台市史なども見ながら可能な限りで遡り、それぞれの要素に関連するような動きや出来事を探りながら書いていたところがございます。当然、杜の都は伊達政宗公まで遡ったりはできたのですが、共生については、私どもで探っていたときには、ここの生活圏拡張運動のところまでしか探れなかったものでござい

す。

もし、「こういう動きが前にありました」というところがもっとあれば、逆に教えていただければ仙台市史などをもう1回紐解きながら、考えてまいりたいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐藤静委員、そういうことでもありますし、委員の皆さまからもそれ以前のことについて情報がありましたら、ここに書き加える検討を行うということでもよろしいでしょうか。

佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

「共生」というのは、たぶん、昔から築いてきたところがあると思うので、何かトピック的なものというよりは、関連する人間の営みのようなことは、どこかで押さえていた方がいいのではないかという気がします。

○阿部一彦部会長

今のご指摘のことを踏まえて、少しこの辺のところの検討を深めていただきたいと思えますし、その結果をもって委員の皆さまと確認したいと思えます。

では、それではこのパートはこのぐらいにして、いったん次に進ませていただいてよろしいでしょうか。

次は、IV「本市が大切にする姿勢」。これは大まかに15分程度ということでございます。資料10ページから11ページです。この部分に記載されている「協働まちづくり」、「大都市としてのまちづくり」、そして「市役所経営」といったところは全体会では個別に取り出して審議ということはしておりませんでした。7つの視点を審議している中で、いろいろと関連するご意見をいただいていたというところでございます。そういうわけですので、審議経過ではあまり記載としては触れる量が少なかったのですが、今回事務局から案として出されているところです。チャレンジや視点から移ってきた多様性はある程度皆さまのコンセンサスを得ていたと思いますが、今回ここに記載することで整理されたものです。

そのようなことで、このところ、IV「本市が大切にする姿勢」。事務局がここに記載したところなどについても、皆さまから15分程度でご意見をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。資料は10ページ、11ページです。

佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

11ページの4番の「持続可能なまちづくり」のところですか。SDGsの達成に向けてというところ、記載していただいているのですけれども、まだまだSDGsとは何なのかというのが、分からない方もたくさんいらっしゃると思うのです。

これはやはり、こういったことが大切だということを、これから知っていただくためにも、SDGsとは何なのかということをごきちんとして説明するところ、注釈なのか、何なのか

記載する必要があると感じました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。まだ多くの市民の方までは浸透していないということなので、その辺のところの記載が大事ではないかということでご意見をいただきました。委員の皆さま、いかがでしょうか。

では事務局からコメントを。SDGsについては参考資料も入っていたと思いますが。

○松田政策企画課長

はい、そうです。すみません。資料のご説明のところで省略してしまいましたが、参考資料として一番下から2番目にSDGsについての概略の資料を付けさせていただきました。

今出たご意見につきましては、SDGsもそうですし、そのほかにも先ほど分かりやすさという話がありましたけれども、やはり注釈が必要な言葉などがたくさんこれから出てくると思います。それらにつきましては、きちんと最後には注釈を付ける形で考えていきたいと思っています。

○阿部一彦部会長

いかがでしょうか、佐々木委員。

○佐々木綾子委員

すみません、ありがとうございました。こちら見逃しておりました。「SDGsとは何なのか」も大事ですし、「何で必要なのか」「何のためにやるのか」ということも一言加えられると、紐付いて分かりやすいのかなと思いました。

○阿部一彦部会長

大事なご指摘ありがとうございました。後はこの分かりづらい言葉と言うか、「AI」、「RPA」とか、いろいろな言葉がありますので、その辺も中高生も含めて市民が理解できる内容になるといいと思いました。

加藤委員、お願いします。

○加藤和彦委員

10ページの、「本市が大切にする姿勢」の中で、ここでさっきも言ったのですが、「協働の理念のもと、新たな課題にトライし、何度もやり直すことができる環境づくり」というのは、どうしても課題から入りたがるのですね。これをもうちょっと何かうまくつくり直すことができないかなと思いました。

先ほども言ったのですが、「本当は、仙台は、そうではないでしょう」と私は思っていますので、ここの表現は直してもらえればと思っています。

○阿部一彦部会長

表現の検討ということは大事なことだと思います。よろしくお願ひします。
奥村委員、お願ひします。

○奥村誠委員

私は昨日の部会の意見と同じで、ここにあることによって、ボリューム的に前のところが重くなっているような気がするのです。この姿勢のところは、わざわざ書いてあるけれども、逆にチャレンジ、協働というようなところは「学び」だろうし、2つ目の「多様性が活きる」というところはやはり「共生」だろうし、次の「大都市としてのまちづくり」のところは「活力」だろうし、最後の持続可能なところは「環境」だから、わざわざこのところにもう1回書いてあるけれども、書かなくていいのではないのかと。ここはいらぬのではないかと正直思ひます。

○阿部一彦部会長

ここというのIV「本市が大切にする姿勢」、そしてシンプルにしたほうが伝わりやすいのではないかというご意見ですけれども委員の皆さま、いかがでしょうか。委員の皆さんからご意見いただひて。
小岩委員、お願ひします。

○小岩孝子委員

私は10ページを見ていて、例えば2行目に「新たな課題」と出てきて、1(1)の1行目のところに、「市政や地域課題」とかが出てきて、(2)には「社会的課題」と出てきて、さらに3(1)の2行目辺りには「課題解決」とか、一番下から2行目にも「社会課題解決」と、「課題」というのはいろいろ種類がいっぱいあるようで、「何これ？」とみんな戸惑わぬかと思ひています。新たな課題というの4ページの3にある課題認識のことなのかとクエスチョンマークが付きます。この辺のところをもう少しまとめるのかどうするのか。それとも「II時代背景と本市の現状」と「III新たな杜の都に向けて～目指す都市の姿～」を少し合体するとかしたほうがいいのかなと。その方が分かりやすいのかなと思ひます。

課題、課題といっぱいあると、何かいっぱい課題がありすぎて、何が課題なのか分らないと思ひたのです。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。シンプルにしていく必要があるのではないかということと、先ほど奥村委員、その前の4ページのところでは課題認識そのものも必要ないのではないかというご意見もありましたね。これらも踏まえて、シンプルに分かりやすく内容が伝わって、中学生も含めて仙台づくりをみんなでやっていく、ということだと分かりやすいというご意見ですね。

ありがとうございます。そのほかの委員の皆さま、いかがでしょうか。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

構成については、私も分かりやすいほうがいいと思うのですが、課題を全部カットというのは少し違和感があるなと思っています。

総合計画は 2030 年のことを考える計画だと思うので、その頃には人口も減っていますし、やはり課題は出てくると思うのです。なので、全カットではなくて、何か順番を考えると、そういう構成の工夫と、先ほど「合体したら」というご意見があったと思うのですが、そういう形で分かりやすくするのがいいのではないかと思いました。

「本市が大切にする姿勢」のところで、(1)の「市民参画促進」のような具体的な施策ではありませんが、そういうものが出てきているとあって、それはカットしてしまうと「具体的に何やるの？」みたいなものが、あまりに漠然とした内容になってしまうと思ったので、それも一市民として私は総合計画で読みたいと思いました。

あと最後に、SDGs のところです。私、このSDGsのワークショップに参加したことがあって、すごく悩ましかったですけど、全部を叶えようとすると、あちらを立てるとこちらが立たずという、悩ましいワークショップになるのです。すごく悩ましいのです。「全部を達成します」と言うと、本当に玉虫色になってしまって、どちらかといえば全部達成を目指すのだけど、仙台としては「何番と何番を大事にします」とか、そういう方が分かりやすいかな。でも総合計画だから全部大事にした方がいいのかなど。迷いますが、そこは1つ意見として挙げます。

あと、これは友人がSDGsの話をしていて出たことなのですが、都市として18番目のSDGsの目標を設けるところもある。「仙台の18番目とは何だろう」みたいなことをちょっと設けてもいいかもしれないと思いました。

○阿部一彦部会長

大事なお指摘ありがとうございました。やはり「大事な課題は残して分かりやすくしながら」というご意見と、SDGsに取り組むということの、これまでの考え方としての大変さ、17までの目標だけれども、18番目の目標を仙台市でも設けてもいいのではないかとするのは、とても「なるほど」というご意見でした。ありがとうございました。

今のことも含めて、委員の皆さま、ご意見ありますでしょうか。

佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

岩間委員とちょっと重複するかもしれないのですが、見せ方として「ここを目指していく」というポジティブなメッセージはすごく大切で、そこがワクワクするとか、そこに勇気づけられるみたいなのがあるのですけれども、やはりその計画というのは、現状とありたい姿のギャップが計画・戦略になってくるのかなと思います。

どこかにある程度、仙台市としての課題は記載しておくべき。だからこそ、「ここを目指していく」というそういったロジックは必要なかなと思っていますので、見せ方と

しては、本当にポジティブに「ここを目指して行くよ」という見せ方は、とてもいいのかなと思っています。

○阿部一彦部会長

貴重な意見、ありがとうございました。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

ギャップを埋めるために計画が実際あるのだということはよく分かりますが、そのときの課題が先にあってやるのが決まるのではなく、やりたい方向性が先にあって、そのときの課題を見たときに「現状がまだ駄目だから」とか、「もうちょっとこのところを頑張らないと」ということにしないと。

結局、子どもを育てるときと同じで、「あなたは5教科7科目全部やりなさいね」と言っただけで、「あなた、これ駄目でしょう」と課題が先に出て、それを「直しなさい」と言っただけではできないのです。そうではなくて、「あなたはこれを得意にしましょうね」と言っただけの、得意なところから「じゃあ、それを得意と言うからには、これもできないとね」「あれもできないとね」「これも頑張ろうね」というふうにしたいというような意味で、ギャップのところは重要なのですが、先に課題ではなくて、先に目標図を描いてほしいというのは先ほど申し上げた通りなのです。

その上で、ギャップを書いても構わないのですけども、このところで別立てをするほどのことなのか、あるいはさっきの目指す都市の姿というのは、結局6ページから9ページの4つの都市個性と目指す都市の姿の、下半分のところに「これを伸ばしてこうしたいです」と埋め込んでしまえば、この「VI本市が大切に作る姿勢」には別立てしなくてもいいのかなという感じもすると思います。

だから、「こういうふうにしたいのです」のところの中に、「こういうことをやりながら、こう目指します」ということを、さっきのページに入れてしまえば、このところにわざわざ出す必要はないのかなというか、そこからも読めるかなというような感じがします。

姿勢のところのページが、言い訳というか、固くなってしまおうと思うのです。では「もう一度振り返って」という感じになってしまうので、ちょっと読んだときに、「さっき頑張ると言ったのではないの？」と。その割には何か言い訳をしているような雰囲気はちょっと漂ってしまうので、だから私的にはここにIVとして立てずに、さっきのところにはばらして埋め込ませてしまった方が読みやすいかなというふうに思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さまからさまざまなご指摘というか、宿題をいただいて事務局が取り組むということになるのかもしれませんが、事務局から委員の皆さまに確認しておくことがあったら、今言っていたいただいた方がいいのではないのかなと思います。

いかがでしょうか、事務局から。

○梅内まちづくり政策局次長

確認はございませんけれども、先ほど来、お話がありますように、構成や表現については、分かりやすくすることは大事だと思っています。そこは事務局としても考えたいと思っております。

また、課題のところにつきましては、課題という言葉を経験的なレベルで便利に使っていて、整理が必要だと思っております。

「挑戦」という言葉がキーワードなので、挑戦する対象というようなことに使ったつもりではあるのですが、先ほど小岩委員からもあったように、課題というワードがさまざまなレベルであまりに多く使われていると思っております。

加藤委員や奥村委員からもありましたように、課題から説き起こすという発想を変えろということも非常に大切なことで、計画全体の構成が変わるという意味でも大きいと思うので、そういったところも考えていきたいと思っております。

SDGsについてもご意見をいただきました。たしかに私どもも国の方の有識者と協議をしますと、SDGsの17の目標全部をイコールにするのではなくて、「その都市にふさわしい形に編集して使ってくれ」というご指摘をいただいております。それは現在の私どもの課題でございますので、そういった中で18番目が出てくるのかもしれませんが、これから作る総合計画とSDGsを照らし合わせて、いかにこれらの目標と、我々が取り組む10年のまちづくりを整合させていくかということを考えていきたいと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。とにかく両方とも2030年というところで一致しております、ただ仙台らしさというのはとても大事だというのは委員の皆さまからもご指摘をいただいているところです。よろしく願います。

では、このパートについてはそろそろ時間になりましたけれども、次に進ませていただいでよろしいでしょうか。

次は最も皆さんと時間を共有する「重点プロジェクト」でございます。先ほど佐藤静委員と遠藤智栄部会長代行から資料もいただきましたので、最初はお二人からご意見をいただきたいと思っております。

まずは佐藤静委員からお願いいたします。

○佐藤静委員

前から「心と命を守り育てる」ということはスローガンのように言っていたことですが、実際どういう取り組み内容になるのかということを示した資料をつくりました。

心と命の問題を出すと、地味で重いテーマなので、こういう課題は伏せた方がいいのではないかと、みたくないことになりがちですが、実は仙台市の心と命を守る社会的資源というのは、非常にポジティブな基盤があります。それを土台にしてうまく取り組みの枠組みをつくっていけば、非常に有効なものになっていくと考えたものですから今回提示しました。

テーマは、「市民の心と命を守り育てる仕組みづくり」です。これは当然ながら日常の場面と非常時における心の支援とその予防の仕組みづくりということになります。

ポイントの1つは、専門家と市民の協働、連携体制の構築です。専門家だけではとてもカバーできません。市民がそこにどのような形で参加できるかというところを前向きに考えていく必要があるかと思います。

対象というか、その問題点ですが、家庭や職場、学校、地域などにおけるメンタルヘルスをどうやって整えていくかという課題になります。心理支援とか自死予防などを想定しているということになります。

組織的な取り組みになりますが、専門家と市民の協働が1つの軸として考えられます。2番目のもう1つのポイントは行政と民間の連携協力体制の構築です。この2つの軸を考えています。行政はそこに書いているようなさまざまな領域というか関連部署があると思います。仙台市は民間が非常に強いところです。医療領域、心理領域、福祉領域、市民ボランティアも非常に力量のあるボランティア団体がたくさんあるということで、これを生かすということはとても大事です。

今はそれぞれの領域でそれぞれの課題で動いていますが、これを総合的にネットワーク、連携体制をつくるということは、非常に重要なテーマだと思います。

市民が参加ということになりますので、市民の皆さんにもこの取り組みの内容を知ってもらうことが必要になってきますので、3番目として啓発と広報、市民を対象としたセミナーや広報活動などというふうに示しています。心の支援に関する基礎知識の普及です。これを通して私たちの心の支援力を向上させることで、地域の心の支えの地力を高めるということになってくると思いますので、是非この部会で検討していただければと思います。

この仙台市基本計画の検討資料の中には、ここで述べたことに関連する言葉が出ていないようなので、是非見える形で入れていただければと願っていました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐藤静委員の今のお話については、委員の皆さんからご意見をいただきますけれども、もう1つ、遠藤智栄部会長代行から資料をいただいています。お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

先ほど「まちづくりフォーラム」の報告を全体の報告とさせていただいたのですが、私が担当したグループがちょうどこちらの部会のテーマと重なる地域コミュニティの強化ということでしたので、そのフォーラムの中の分科会のご意見をご紹介しますと思います。

1ページ目は私がフォーラムで報告した内容ですので、ご覧いただければと思います。続いてグループが3つありまして、グループ1、2、3でご紹介をします。

先ほどから課題と目指す姿の目標という議論があると思うのですがけれども、最初の段階では市民の皆さんから、地域コミュニティに対する不満とか「大変そう」「いろいろ納得がいかない」などの声がたくさん出ました。そういうものがたくさん出た後に、「ではどういうのを目標にしたらいいのか」を考えていただいたところ、皆さん、ご自分たちできちんとまとめていただきました。やはり部会で報告すべきことだと思ったのでご紹介を

します。

グループ1、ここに結構掛け合わせが出ていますので、意識して見ていただきたいです。今、地域の担い手というのが高齢者の方が多いということで、やはり若い方を巻き込むと。若い方と地域の掛け合わせ。後は地域とICTやSNSの掛け合わせ。これがまだまだ進んでいないというのが現状だということです。

お手元の資料だと、地域と未来技術というもう少し先のことが書いてあるのですが、手前のICTとSNSの活用状況もまだまだだという。そのあとにこの未来技術というのがついてくるのかと思いました。

そして、地域と企業。こちらもある意味掛け合わせということで、もっと地域の企業と地域コミュニティが連携していくことを目標にしたらいいいのではないかというのが出ています。

続いてのグループ2が、今日の素案で言うと、チャレンジや挑戦のところに関わってくると思っています。当事者意識を持って自主的にまちづくり参画とか、あとは話し合いで決まったことを具現化するためのセンター。社会教育施設の場合は、主に学びが中心だと思うのですが、学んでやりたいと思ったのを後押しするというような。実はそういう役割のセンターは仙台にいくつかあると思うのですが、そういう施設だということが伝わってないのかもしれないのです。それはとてももったいないことだと思います。

グループ3です。グループ3は地域と情報ということで、今は情報を何で受け取るかということが市民によってかなりバラバラです。情報のツールが違うことで年代ごとにコミュニティがバラバラであったり、連絡の取り合い方もかなり難しい。ですから、若い人たちのツールと、大人とかご年配のツールが違うので、一緒に事業をやれないなんていうことも実際に出てきています。

そういった点でご指摘・提案、目的・目標が提案されているかと思います。ですから、ペーパーとメール、LINEなどのアイテムも活用して、情報共有をして、まず集まろうと。他世代が集まるという場が地域の中で少なくなっているなので、まずは「集まろうぜ」という目標も面白いなと思いました。是非この辺りの掛け合わせもご検討いただけたらと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。遠藤智栄部会長代行からは「市民まちづくりフォーラム」について、それぞれのグループでのお話の内容なども含めて報告いただきました。ありがとうございました。

では改めまして、12から24ページの「重点プロジェクト」の方に移ります。そしてその中で佐藤静委員、遠藤智栄部会長代行の報告も含めて、皆さんからご意見をいただきたいと思えます。

まず事務局から説明がありましたけれども、審議経過では7つの視点として取りまとめたものを、部会ではより具体的な施策イメージを深掘りするというので、6つのプロジェクトとして再構成したということです。

そして2つの部会で6つのプロジェクトのうち、3つずつを所管するというのも説明

がありました。私たちの地域とくらし部会の所管は、プロジェクト2「みんなでつくる地域未来プロジェクト」、プロジェクト3「笑顔はなまる子どもプロジェクト」、プロジェクト4「いきいきライフデザインプロジェクト」。

そして「まちと活力部会」の方では、プロジェクト1、5、6です。「まちと活力部会」の所管の方でいいますと、プロジェクト1は「未来へつなぐ防災環境プロジェクト」、プロジェクト5「TOHOKUチャレンジプロジェクト」、プロジェクト6「せんだい都心再構築プロジェクト」。ということで、先ほど説明がありました。

まずは、重点プロジェクトとして6つを掲げていますが、大枠でこれでいいかということです。そこでご意見をいただいて、その上で私たちが所管するというか、私たちが深く関わる2、3、4の3つのプロジェクトについてのご意見をいただくように展開してまいりたいと思います。

さて、委員の皆さん、いかがでしょうか。そして先ほどの佐藤静委員、遠藤智栄部会長代行のご意見・報告も含めて、委員の皆さまからご意見いただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

岩間委員、お願いしていいですか。

○岩間友希委員

プロジェクト名が漠然としているような気がするのですが、これは指摘していいのでしょうか。また、表現のセンスとかの問題になってしまうと思って、ちょっと言いづらいのですが。例えば「TOHOKUチャレンジプロジェクト」とか、一言では分かりづらいかないと思いました。

○阿部一彦部会長

概要はこの6つということによろしいのですか。でも表現の仕方ということでのご意見でした。委員の皆さん、いかがでしょうか。まずは6つのプロジェクト。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

「重点プロジェクト」のすぐ下のところの説明文に、「新たな仙台らしさをつくるプロジェクトを重点プロジェクトと定めて推進していきます」とお書きいただいているのですが、こう書いていただくと、プロジェクト推進室とか、プロジェクト推進チームができるのか、それともこれはイメージで、個別にそれぞれの部署でやるのか。その辺もどっちなのかなという。

○阿部一彦部会長

では岩間委員のご意見と、それから遠藤委員のご意見に関しまして、どうなのかということがありましたので、事務局、お願いします。

○松田政策企画課長

まずプロジェクトの名称につきましては、我が課のセンスの総力を挙げてまいりたいと思います。すぐ直すかどうかというところなのですけども、具体の施策の内容と最も関連するところなので、そちらも見合わせながら、もっとこういう表現があると思えば、都度直してブラッシュアップをしていきたいと考えております。

それから「プロジェクトと定めて推進していきます」については、少し誤解を招くような書き方だったと思います。これについてはそれぞれの6つごとにそういうことを推進する部署ができるということではなく、実はこれは局横断的なものが混ざっています。1つの局なり、1つの課でできるということではなくて、いろいろな局が関わるものは、この1つのプロジェクトに向かって組織横断的に取り組んでいこうというイメージを持っているものでございます。12ページの上の方のその文章の書き方が誤解を招くようであれば、そこは直したいと思います。

○阿部一彦部会長

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

今おっしゃっていただいたように書いていただくとよろしいかなと思いました。ありがとうございます。

○阿部一彦部会長

分かりやすくということで、ありがとうございます。そのほか委員の皆さま、いかがでしょうか。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

今の話に関連しますが、前の計画、現状は現計画では重点的な取り組みと書いていただいているところを、プロジェクトというふうに位置づけたところは、すごく意志が感じられて、「みんなでやるぞ」という感じがしていいなと思いました。

一方で10年間をかけてやるプロジェクトなので、「その成果は何なのか」ということと、それを「どう進捗管理していくのか」というのは、日々プロジェクトをやっている立場からすると、プロジェクトは疲れてきたり、成果を見失ったりすることもあるので、何かその辺をプロジェクトらしい成果の置き方と進捗管理ができるといいなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。進捗状況をどういうふうにモニタリングしていくかということも大事なことです。それらについても、委員の皆さまからいくつかご意見いただいた上で、事務局に今考えてもらっています。表現の仕方ですけど。委員の皆さん、いかがでしょうか。

佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

私が理解不足なところがあると思うのですが、これを見たとき、7つの重点の取り組みの視点があって、そこから6つのプロジェクトとなるのですが、そこで「6つのこのプロジェクトでいいですか？」と言われたときに、良いか悪いかも分からないというか、どのように紐付けられているのかというのが、直感的に分からなくて。

視点では1、2、7とかに掛け合わせられているので、そこで1個ずつ見ていくと「何となくそうなのか」というところがあるのですが、この分かりづらさがあります。解はないですけど、どうしたらいいかと。

図か何かで一目瞭然、つながってきてこうなるというのが分かるといいと思うのですが。

○阿部一彦部会長

それぞれの視点とプロジェクトの関係が分かるように工夫が必要ということですね。もしこの辺について「こうしたらいい」というのが委員の皆さんからあれば一番ありがたいことですが。いかがでしょうか。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

私の感性からすると、この7つの重点的な取り組みの視点も要らないのではないかと。これは審議の途中経過のいったんまとめをするときに、途中の整理のために立てたものだから。

結局、それはむしろでき上がった文章を見たときにはどうでもいいことで、それぞれ読んだときに「重点を置いてやりたい」という点に何が埋め込まれているのかが分かってもらえれば別に構わないので、審議経過の部分をここに残す必要はないと思うのです。

全体会のときは、「ここまでは認めていただいて」と言っていたわりには、今は違ったことを言っているのですが、途中段階のものだから気にしないのがいいのではないかと。プロジェクトのところをきちんと書いていけばいいのではないかと、私は思います。

○阿部一彦部会長

今、奥村委員からまず大事なものはプロジェクトなのだから、その経過をここで振り返ることはいいのだけれども、アピールするときにはプロジェクトを前面に出したほうがシンプルで重要なことが伝わるというご意見だと思いますけども、これは大事な発言なので、このことについて委員の皆さま、ご意見がありましたらお願いします。いかがでしょうか。12ページの1の方は省いてもいいのではないかと。審議の経過であって、2のプロジェクトをアピールする方が伝わり、分かりやすいのではないかとということですね。

そしてまた「これに取り組むわけですから」ということですが、この辺について委員の皆さまは領いていただいていますけれども、いかがでしょうか。

加藤委員、お願いします。

○加藤和彦委員

私も奥村委員と同じで、この視点は無くても別にいいのではないかと考えています。プロジェクトの方に盛り込んで入れればと考えております。

○阿部一彦部会長

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

今日の資料でいうと、25、26 ページ。「VI基本的な施策の方向性」のところがありますけども、7つの重点的な取り組みの視点を消すとすると、入っていたものがなくなるというよりは、こちらに漏れ抜けなく入ってくるということになるのですか。7つの重点的な取り組みの視点は「あの時は大事だ」と言ったのに、「あら、いなくなっちゃったわ」みたいな。

○阿部一彦部会長

漏れのないように、網羅的にというところには入るのですね、という確認ですけれども、事務局からコメントをお願いします。

○松田政策企画課長

今の委員の皆さま方の質問にまとめてお答えをしたいと思います。

まず7つの視点と重点プロジェクトのつながりについてはお示しをしたところでありますが、奥村委員がおっしゃるように、7つの視点というのは審議経過の1つとして経過的に取りまとめたものであって、今回事務局としては、それらを6のプロジェクトに落とし込んだ形にしております。ですので、ある意味重複をしていると言えはその通りではありますので、そちらについては本日のご意見も踏まえ、また、全体の流れが見やすいように、よりシンプルになるように精査をしてみたいと思います。

6つのプロジェクトがなぜ出てきているのかということについても、今はたぶん少し分かりづらいところがあるので、6つでいいのかということについては何とも判断が難しいところだと思います。それらはやはり、最初の今後10年の情勢や、「仙台市の強みをさらに生かしていく」「こんなまちを目指していく」「そのときにはこういう課題がある」という点もきちんとストーリーの流れとして見れば「だからこの6つなんだね」が見えると思います。やはり全体の構成が今回見えづらいところがすべての原因かと思えますので、そちらについても考えてまいりたいと思います。

それから、当初考えていたさまざまな7つの視点にぶら下がる施策のイメージなどがありまして、それらすべてが重点に入っているかということ、そうでないものもあります。

それらについては最終的に、最後の網羅的なところで拾うものがいずれ出てくると思えます。そちらの方はやはり網羅ですので、漏れのないように拾ってまいりたいと思います。

○阿部一彦部会長

では委員の皆さま、そのような方向で進めるということによろしいでしょうか。そして、表現については、工夫ということで。委員の皆さまと協議するための工夫の材料をよろしくをお願いします。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

15 ページの「地域×交通」のところなのです。ここに「地域交通のあり方」ということで書いていただいているのですが、地域交通よりももう少し広い概念で、今の暮らしの中の移動を考える。移動の中の1つが地域交通という考え方で全国では今議論が進んでいます。その移動の中には無償のボランティア送迎なども入りますし、そういったことも含めて交通なのかと私も今考えています。ちょっとその辺をもう少し継続して考えたいと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今、遠藤智栄部会長代行のご意見を皮切りに、私たちが所管するプロジェクト2、3、4に入ったところです。そのプロジェクト2について、遠藤智栄部会長代行から交通のところでご意見をいただきました。3、4も含めて、ご意見をいただければと思います。

小岩委員、よろしくお願いします。

○小岩孝子委員

6つのプロジェクトですが、先ほど佐藤静委員の報告を聞きまして、私も「心と命を守り育てる」というのを是非何らかの形で入れたいと思っていたのです。

これは子どもたちだけのことでなくて、仙台市にとって「震災」や「いじめ問題」も含め、すべてに関してのまとめになるのではないかと考えているのです。

「何するの？」となると、とても難しいことなのですが、ただ必要なことで、佐藤静委員の資料の(1)のところでは専門家と市民の協働となっていて、(2)が行政と民間の連携となっているのですが、私は全部を含めた協働がないと、これから先10年やっていけないのではないかと考えているのです。

だから、それを具体的に仙台から打ち出すということを是非したいなと思っています。「どんな形？」と言われると、なかなか難しいものがあるのですが、この1番から6番のプロジェクトすべてのことを含めて、「心と命を～」の題でいいのかわからないのですが、「心と命を守り育てる」というのが、今一番必要なテーマではないかと考えています。

そのためにはどことの協働だけではなくて、全部を含めてやっていかないと10年先は難しいだろうと。今、家庭と学校と地域でいろいろな取り組みを私もさせてもらっていますが、もっとしなくてはいけない状態になっています。専門家との連携も必要ですし、「心と命を守り育てる」を打ち出すようなことを仙台市だからこそ市民協働で一緒にやれたらいいなと思っています。佐藤静委員の発言をととても私は感動しながら聞いており

ました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐藤静委員のご提案についてのご意見は、すべてに関わる「今すぐどこを」ということよりも、しっかりと内容を吟味して、この中に加えるのが仙台らしさということにもつながるのではないかというものです。貴重なご意見、ありがとうございました。

そのほか委員の皆さん、いかがでしょうか。

佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

これは奥村委員に伺いたかった。プロジェクトを6つ出すというのは、それでいいかと思うのですが、見え方とすると、クローズドな感じがしています。オープンな感じがしないのですが、それは意図されているところでしょうか。

○奥村誠委員

クローズドというのは、どういうふうに見えていますか。

○佐藤静委員

これしかやらないのですか、というふうに見えるということです。

○奥村誠委員

これは少し事務局と私は考えが違うかも分かりませんが、どちらかという、「今はこういうことに力を入れる」ということをいくつか見せる意味だと思っています。最後の網羅したところもありますので「プロジェクトに入っていないからやらない」ということは意図しておりません。

ただ、最初の全体会のときに言いましたが、いずれにしても「このことが大事だ」と様々な分野の方が言い出すと、全部薄く広がってしまいます。そうではなくて、ここにはスポットライトが当たるというのが、ここでいうところの6つのプロジェクトとしてある。だから、一番近いスポットライトのところに行って、「はい」と集まってやってほしいということなのです。「私のところにスポットライトを当てろ」ということではなく、「スポットライトを当てますよ」というところに皆さんが近づいて、「私はこのスポットライトにこう関わるから」というふうに、それぞれ求心的に集う場所として、プロジェクトがとりあえず6つぐらいあるというイメージなのです。

だから、この範囲に入っていないことはあまり重点的にやらないというよりは、先ほどありましたように、地域の未来をつくるためにITの人が入って「ここでこのようにITを使っていったら、うまくいくのですよ」という提案をしてもらう場所を決めて、そこでチャレンジ的に試してみるようなことができあがる。「ここでやっていますよ」というような、スポットライトが当たっている、花形のところがあるというのを見せたい、という

意図なのです。

だからクローズドに考えているというよりは、どちらかというと、焦点を当てたところに「集まる人は集まってください」と指を立てるような、「この指とまれ」の指を立てるというイメージに近いのです。私の考えは。

○佐藤静委員

それをどんなふうにかか。まとめるか、見せるかですね。

○奥村誠委員

ちょっと気になるのは、プロジェクトのページのところの真ん中に「施策の方向性」と書いてあるではないですか。こう書いてしまうから、何か「市はここしかやりません」みたいに見えるのだけど、本当は「この目標のために集まってほしい」というか、やってみたい事柄みたいなものがもう少し。これは市が責任を取るという話ではなく、こういう方向性で結集していけば実現するのではないかというアイデアがいくつか並んでいて、それを全部市役所がやるというよりは、「みんなでやります」というふうになっているべきなのではないか。

そこに「施策の方向性」と書いてしまうと、「市がやります」みたいに見えるので、この真ん中のところの左に書いてある「施策の方向性」というのが良くないのかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐藤静委員、今の話、奥村委員に話していただいたことになりますけれども。また、この辺のところは今の奥村委員の話ですと、「施策の方向性」というと「市がやるもの」と見えるけれども、「みんなで取り組むのだ」ということですね。その辺の工夫が大事だということ。

○奥村誠委員

先ほどの15ページの「地域と交通」の話を、もっと具体的なことでお話しさせていただきます。私はもともと交通専門ですが、交通は手段なのです。目的ではないのです。

だから、ほかのところに行って「こういうことをしたい」という活動を支えるために動く必要が出てきて、「だから移動がしたい」ということなのであり、交通は別に目的ではないのです。いわば、ドラえもののポケットみたいなものがあつたら、交通なんかいらないわけで。

ですから、交通というのは手段でしかなく、やはり移動なのです。その移動で仙台もそろそろ考えていけないといけないのは、昔は自動車を持っている人が少なく、バスに乗らないと動けない人はみんなバスに乗ってくれていたけど、今はみんな自動車で動くようになった。そうしたことで逆に自分で自動車を運転できない人の移動の問題が出てきているわけですね。

交通の今の動きは、交通機関をそれぞれでどう成り立たせるかということではなく、そ

れをうまく統合してITに乗せ、そして移動をどうやって実現させていくかというところからもう一度見直す方向に行こうとしているのです。

でも、もっと考えれば、実はそこに移動して結局はお医者さんに行きたかったのだったとしたら、移動とそこで受けている医療サービスみたいなものを分けて考えるよりは、それを一緒にどうやって実現するかということの本当は考えてあげないといけない。

そうしないと、交通だけは残ったけれど、あるいは移動はできるのだけでも、医療機関がやっていけなくなって無くなってしまいましたということにもなりかねません。今までの交通、福祉、医療と分けて考えていたものがそのままいけるのかと言われると、たぶんそうではなくなり、うまくそこで行われていたいろいろな地域生活をどうやって成り立たせるのか。本当の地域のあり方というものを、情報技術や予約システムなどをうまく組み合わせることを考えていかないといけない時代に来ているのです。

だから、そういうことでいうと、15ページの「地域×交通」の書き方は「ちょっと限定的かな」と思うのですが、下に未来技術と書いてあって、だから未来技術をしっかり入れていただければ、そういうことが可能になるのかなと思っています。

それと、この部会は3つのプロジェクトの担当ですが、「ライフデザイン」と「子ども」というように、子どもだけ特出しにしないといけないのかという点です。先ほどの佐藤静委員から提案があったような形で、まずは「生きるということをきちんと守ってあげる」というベースを「どのように実現するか」という話を1つ置いて、もう一つそこから目指してきた挑戦みたいなものを社会の中で新しい技術を使いながらやってみる。

つまり今は、子どもと、何かその他一般の大人、みたいな対象で分けているのだけど、安心できる暮らしや心と命を守るというベースで支える話と、技術なども使って地域の中で難しくなっている課題とかいろいろなことを解決していくという二つのものに再構成していくことで、佐藤静委員の提案をプロジェクトとして入れられないかと考えています。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。ところで予定の時間になりましたけど、少し続けさせていただきたいと思います。

佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

先ほどの佐藤静委員と奥村委員のお話、とても勉強させていただきました。私も「心と命を守り育てる」というのは、このプロジェクトとは並列ではないのかなと。もっとその前にある大きくて大切なレイヤーというか、ここがあるから次のプロジェクトに行けるといふように、お話を聞いて感じました。

やはりこのプロジェクトを行っていくためにも、まず命があり、心があるからプロジェクトをどんどん進められる、チャレンジできる。そういった人材が育ったり、そういう状態があるから、さらに未来志向になってチャレンジできるというところがありますので、ここはすごく私も大事なところだと思っています。

最近の事情で、ご家庭ではなかなかお子さんの心を育むといったところもなかなかでき

ない今の世の中でございます。あえてここを土台としていくことはすごく重要と感じておりました。

○阿部一彦部会長

貴重な意見ありがとうございます。土台となる考え方が大事ということでご意見をいただきました。

プロジェクト2、3、4なのですけども、3、4に関しても2の問題、それから奥村委員からはこのプロジェクトの構成についてもお話が出ました。今日はいろいろな意見をいただくということによろしいですね。

そういうことで、プロジェクトの3、4も含めてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。3と4をもっと分かりやすくというか、「子どもと大人という分け方ではなくて」という奥村委員の話もありましたけども、その辺のところも含めて委員の皆さんいかがでしょうか。3と4は私たちの部会の課題だから、これは継続して検討を深めるということもありますが。

委員の皆さん。今日は「フラットに」と言いましたが、「フラットに」「フラクに」で、いろいろなご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

とても言葉にするのが難しく困っていますが、今日は全体の構成で何回も挙がっていると思うのですけど、構成全体で考えたときに、たぶん「プロジェクト」のようにカタカナ日本語なので、「プロジェクトというのは何だろう」というところをもう1回構成のやり方に生かした方がいいだろうと思っています。

ピラミッドがあると思っていて、理念が「目指す姿」です。であれば、最初に戦略・シナリオと呼ばれるものが来ます。理念が「新たな杜の都～挑戦し続けられる杜の都をつくる～」だとすれば、シナリオは「4つの個性をうまく掛け合わせます」です。その4つの個性を掛け合わせる「シナリオというのは何？」というのが、省いてしまうと言っていた1から7の視点のところなのかなと思っています。その下にプロジェクトが来るはずなのです。なので、そこが紐付いていないためにモヤモヤするのかなと思っています。だからその戦略の部分がちょっと分かりづらいから、こういう議論が起きてしまっているのかなと思っていました。

もし「4つの個性をうまく掛け合わせる」というのがシナリオなのだとなれば、プロジェクトの表現の仕方は、「これとこれとこれを掛け合わせることで、こういうことが成せる」みたいなプロジェクトの書き方になるのかなと。すごく漠然とした説明なのですが、その辺の整理をすればもう少し分かりやすくなるのではないかと思います。

○阿部一彦部会長

整理の仕方に工夫をして分かりやすくということですね。ありがとうございます。委員の皆さんもほかに。

これからも重ねて議論していく内容ではありますが、いかがでしょうか。

もう1つあるので、そちらに1回進めさせていただいてよろしいでしょうか。

先ほどもう1つの部会が昨日開催されてご意見もあったということでした。そして今回もいろいろ皆さんからご意見をいただきました。そのようなことで、次回に反映した修正版が出てくると思いますが、今回議論できなかったこととか、うちの所管でない部分ですね。ちょっと議論することもできませんので、これらについては次回の部会でご意見を伺いたいと思います。

さて、次は5分でということになりますけれども、VI「基本的な施策の方向性」、VII「区別計画」、VIII「進行管理の方針」、IX「資料編」とありますけれども、これは25ページから27ページです。

ここでは現段階ではあまり審議することではないかとは思いますが、委員の皆さま、何かお気づきの点があれば、お話ししていただきたいと思います。いかがでしょうか。では、よろしいでしょうか。

本日の基本計画の検討という審議は、ここまでにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(3) その他

○阿部一彦部会長

次は(3)「その他」です。このことについて委員の皆さまから何かございますか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

5 開会

○阿部一彦部会長

本日の議事はここまで。以上で終了いたします。

最後に事務局から何か連絡等がありましたら、お願いしたいと思います。

○松田政策企画課長

事務局から1点ご連絡がございます。次回の審議会の日程でございます。お手元の座席表の裏面に、今後の日程について記載しておりますので、ご確認いただきたいと思います。

次回の第2回「地域とくらし部会」は12月4日(水)18:00から開催したいと考えております。場所は今日と同じこの第3委員会室になります。

ちなみにもう1つの「まちと活力部会」は前日の3日(火)の開催を予定しております。また、配布資料ですけれども、こちらは全体会に引き続き、事務局で保管いたしますので、机の上に置いたままで結構でございます。

○阿部一彦部会長

それでは以上をもちまして、本日の審議会部会を終了いたします。

皆さん、どうもありがとうございました。